

S-KYT研修及び消防団員災害救援ストレス対策研修を実施して

鹿児島県市町村総合事務組合

1. はじめに

鹿児島県は九州南部に位置し、本土と呼ばれる薩摩・大隅地方と、種子島や屋久島、奄美群島などの離島によって構成されています。南北約600kmにも及ぶ県土には、世界自然遺産の屋久島、サンゴ礁や希少な野生動植物が見られる奄美の島々など、豊かな自然が残っており、温帯から亜熱帯に至る多様で温暖な気候のもと、全国2位の源泉数を誇る良質で豊富な温泉にも恵まれ、また黒豚・黒牛やキビナゴ、カンパチ、ブリ、焼酎などのおいしい食の宝庫であり、自然・歴史・食・温泉などの豊富な資源にあふれています。

一方で、鹿児島県は11の活火山を有し、毎年台風が接近する自然災害の多い県であり、本年度は口永良部島での噴火や、三島村での台風被害などの災害が発生しました。このような災害に対して、消防団の果たす役割は極めて重要なものとなっています。

2. 組合の概要

当組合は、平成19年4月1日に、それまで単独で運営してきた鹿児島県市町村消防補償等組合を含む7組合を統合して設立されました。消防事業については、35市町村が加入しており、消防団員10,798人（平成27年度10月1日現在の条例定数）を対象としています。

当組合では、消防基金との共済契約に基づき、非常勤消防団員に係る公務災害補償及び退職報償金の支給を行うほか、公務災害防止研修事業等を通じて、消防団員の心身の安全と健康の支援に努めております。

3. S-KYT研修開催の経緯及び研修の様子

当組合では、平成25年度から消防基金の助成及び後援のもと、消防団員の公務災害を減らし、消防団員がより安全に活動することができるようになることを目的として、「S-KYT研修」を開催しています。この研修は希望市町村を対象に開催しており、平成25年度には2団体、平成26年度には8団体において開催しました。平成27年度は、11月末現在までに7市町村において開催し、この後も2市町村での開催を予定しています。これにより、平成25年度から平成27年11月末現在までに、15市町村、755名の消防団員が、「S-KYT研修」を受講したことになります。

各市町村での研修では、消防職員OBの指導員による丁寧な指導のもとに、まず消防団員の公務災害に関する講義を通じて、研修の重要性に関する説明が行われます。講義の後には、指差し呼称、指差し唱和、タッチ&コール及び健康KYなどの実技を通じて、確認作業や各メンバーの健康状況を把握することの重要性を学びます。そして、消防活動の現場にどのような危険が潜んでいるか、またその危険に対してどのように対処するべきかについて、イラスト・シートを用いてチームで話し合いを行う、S-KYT基礎4ラウンド法を実施します。

以上のように、S-KYT研修は通常の座学による研修とは異なり、実技を中心とした研修であるため、研修を行う中で班のメンバー間の連帯感が高まり、多くの参加者が積極的に意見を表明することのできる、とても有意義な研修となりました。

また、研修終了後に出席者に対して実施しているアンケートでは、「研修を受けていない団員にも、今回の研修で学んだことを教え、普段の

消防団活動の中で危険予知を行おうと思いましたが「消防団活動における、団員の健康状態を把握することの重要性を再認識できました」などの積極的な感想が多数提出されています。

4. 災害救援ストレス対策研修開催の経緯及び研修の様子

東日本大震災以降、消防団員が災害救援活動を行う際に悲惨な災害現場に遭遇してしまい、惨事ストレス障害を発症してしまう可能性が問題となっております。そこで、各市町村の消防事務担当者に惨事ストレスに対する理解を深めてもらうため、平成27年7月7日に鹿児島市において、別府大学臨床心理相談室室長の矢島潤

平准教授を講師としてお迎えし、「災害救援ストレス対策研修」を開催しました。

当日は、33市町村43名の消防事務担当者の出席のもと、PTSD及び惨事ストレスとは何か、ストレスの感じ方の個人差、PTSDによって生じる症状、惨事ストレスと消防団員等の二次被害者、部下への心のケアなどの内容について、様々な事例を交えた講義が行われました。

講義では、「通常のストレスについては、考え方や感じ方を変えるなどの方法によって解決することができる場合もあるが、PTSDや惨事ストレスを気合や根性で解決することは不可能である。惨事ストレスなどに対しては、適切な心のケアが必須であるので、気を付けてほしい」



S-KYT研修の様子

という旨の話がありました。

研修参加者からは、「悲惨な現場での活動から帰ってきた部下に対しては、上司は“よくやってくれた。”などのように肯定的な言葉をかけるのがよい。仮に今後の活動のために、“あの時こうすればもっと良かった。”などの指摘を行う場合には、数日おいてから言った方がよい」などのように、様々なケースにおける対応について、具体的かつ実践的な内容の講義であったため、とても分かりやすかったという感想がありました。

この研修で得た知識を、各市町村に持ち帰って周知してもらうことによって、今後の消防団員の惨事ストレス対策に活かしていただきたいと思います。

5. 今後の取組

平成28年度は、本年度に引き続き「S-KYT研修」と「実務研修会」の開催を予定しています。

「S-KYT研修」については、現在加入市町村に対して開催希望調査を行っているところですが、現在のところ、本年度以上の市町村が開催を希望しており、その半数以上が初めて開催を希望する団体となっています。よって、平成25年度から平成28年度までの4年間で、6割以上の組合加入市町村において「S-KYT研修」が開催されることとなります。

また、実務研修会などを通じて、各市町村に対して公務災害防止研修事業の紹介を行い、各市町村に研修の趣旨を十分に理解していただけるよう努力してまいります。



災害救援ストレス対策研修の様子